

「東日本大震災」から2年～“福島プレスツアー”実施される

～海外メディア15社が「故郷再生に挑む福島の人々」を取材～

去る2月27日（水）、公益財団法人フォーリン・プレスセンター主催の「福島プレスツアー～原発事故から2年、故郷再生に挑む福島の人々～」の一環として、10ヶ国（地域）全15社16名の在日外国報道関係者が当院を訪れました。

当日は、5階講堂にて日本赤十字社の福島における活動や内部被ばく検査の概要及び検査結果の説明、質疑応答の後、1階のホールボディカウンター（WBC ※）にて、内部被ばく検査風景の視察や検査を受けた方へのインタビューが行われました。



各国の報道関係者（WBC 受付を前に）



赤十字の活動、内部被ばく検査についての概要説明



高校生にインタビューする報道陣

報道記者は、「検査は一度きりではなく、今後も続けるのか」「内部被ばくの心理的な影響に對しどう思うか」といった質問やインタビューを通し、福島市民の健康管理の取り組みや内部被ばくに対する意識について、理解を深めていました。

※ホールボディカウンター（内部被ばく測定器）

内部被ばく線量を調べるため、体内に摂取され沈着した放射性物質の量を体外から測定する装置。身体から漏出するガンマ線を計測し、体内に存在する微量の放射能の定量分析や人体内の放射能分布を測定する。福島赤十字病院には、海外の赤十字社・赤新月社等を通じた海外救援金によりホールボディカウンター1台が設置されている。